

「第2次健康あさひ21計画」

中間評価報告書

令和2年3月

尾張旭市

目次

I	中間評価の概要	1
1	中間評価の目的	2
2	中間評価の方法	2
3	アンケート調査の実施概要	3
II	中間評価結果	5
	全体の総合評価	6
1	栄養・食生活	8
2	身体活動・運動	10
3	休養・こころの健康づくり	12
4	たばこ・COPD	14
5	アルコール	16
6	歯の健康	18
7	生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病）	20
8	健やか親子	24
9	食育	27
	主な実施事業一覧（健康課）	29

※図・表・グラフ中の数値表記について

図・表・グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しています。そのため、端数処理の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

I 中間評価の概要

1 中間評価の目的

本市では、平成27年3月に「第2次健康あさひ21計画」を策定し、市民の健康づくりに関する取り組みを推進してきました。「第2次健康あさひ21計画」の計画期間は、平成27年度から令和6年度までの10年間であり、その中間年度である令和2年度に計画の見直しを行うため、令和元年度に計画の中間評価を行いました。本報告書は、平成27年度の「第2次健康あさひ21計画」策定時に設定した目標について、その達成状況を評価し、計画期間の後半にあたる令和2年度から令和6年度までに取り組むべき課題等を整理したものです。

2 中間評価の方法

中間評価は、各種統計データや市民アンケート調査により得られた結果をもとに、「第2次健康あさひ21計画」で示した9分野の指標について評価を行います。

策定時（平成27年度策定当初値）、中間時（今回の調査等実績値）の目標値との比較を行い、目標の達成状況を、以下の判定基準により評価しています。

■目標達成度の判断基準

判定区分	判定基準	判定結果			
		再掲含む		再掲除く	
★	現状値が令和6年度目標値を達成している（達成）	23	(改善) 66	20	(改善) 55
◎	現状値が令和6年度目標値の50%以上達成している（改善）	15		11	
○	現状値が令和6年度目標値の50%未満達成している（やや改善）	28		24	
×	現状値が策定時より悪化または低下している（悪化・低下）	41		37	
—	判定ができない（判定不可）	1		1	
合計		108		93	

3 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

「第2次健康あさひ21計画」の中間評価及び計画の見直しに伴い、市民の健康状況、健康づくりの意識・活動、生活習慣等に関する実態を把握し、目標値の再設定や施策の見直しに活用することを目的として市民アンケート調査を実施しました。

(2) 調査実施期間

令和元年10月23日～11月8日（乳幼児保護者については令和元年10月18日～12月17日）

(3) 調査対象・調査方法・回収結果

調査対象	調査方法	配布数	回収数	回収率
妊婦	郵送による配布・回収	200人	100人	50.0%
乳児保護者	健診時に直接配布・郵送による回収	196人	111人	56.6%
幼児（1歳～3歳児）保護者	健診時に直接配布・郵送による回収	227人	102人	44.9%
小学2年生	学校を通じた直接配布・直接回収	212人	193人	91.0%
小学5年生	学校を通じた直接配布・直接回収	216人	200人	92.6%
中学2年生	学校を通じた直接配布・直接回収	224人	218人	97.3%
17歳	郵送による配布・回収	300人	105人	35.0%
市民（20歳から70歳代）	郵送による配布・回収	1,400人	581人	41.5%
合計		2,975人	1,610人	54.1%

Ⅱ 中間評価結果

全体の総合評価

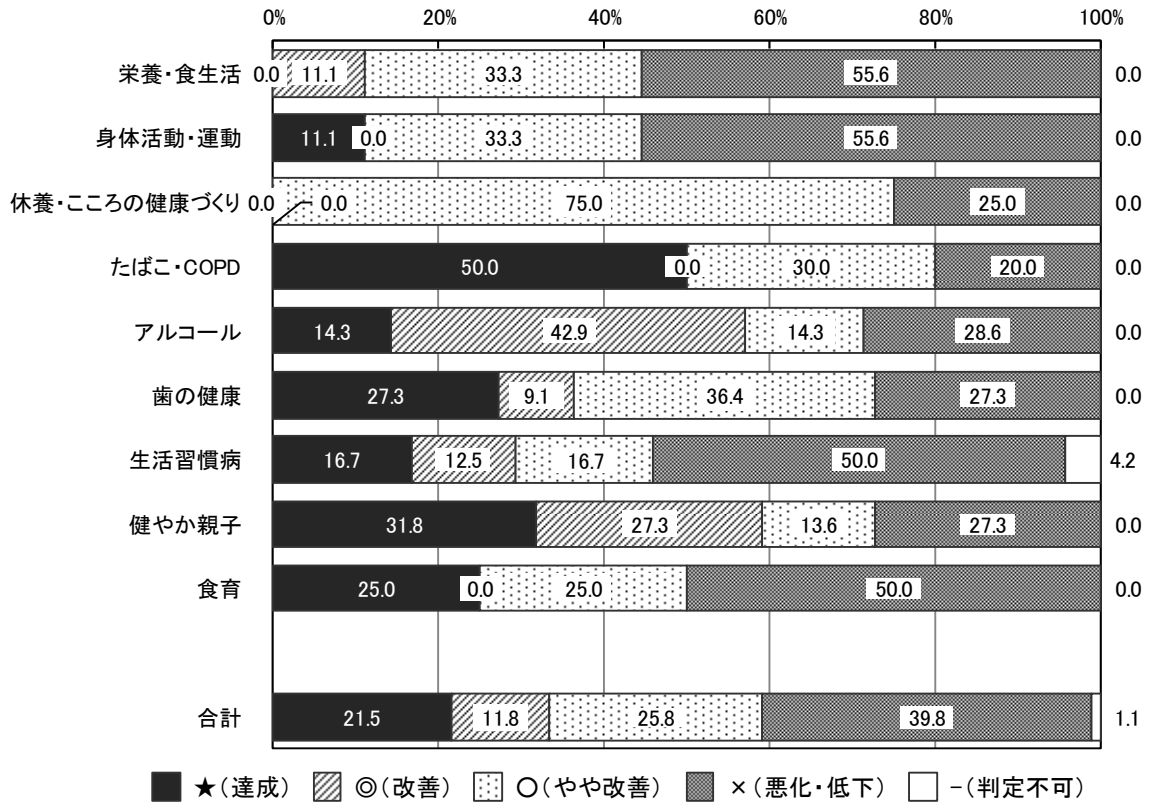
目標の達成状況を全体で見ると、「★（達成）」「◎（改善）」「○（やや改善）」を合わせた、一定の成果がみられた項目の割合は59.1%となっています。

特に改善以上の割合が高い項目は「たばこ・COPD」「アルコール」「健やか親子」となっています。一方で、改善の割合が低く、悪化の割合が高い項目は「栄養・食生活」「身体活動・運動」となっています。

■全体の評価結果

区分		★ (達成)	◎ (改善)	○ (やや改善)	× (悪化・低下)	- (判定不可)	合計
栄養・食生活	指標数	0	1	3	5	0	9
	割合	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%	0.0%	100.0%
身体活動・運動	指標数	1	0	3	5	0	9
	割合	11.1%	0.0%	33.3%	55.6%	0.0%	100.0%
休養・こころの健康づくり	指標数	0	0	3	1	0	4
	割合	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
たばこ・COPD	指標数	5	0	3	2	0	10
	割合	50.0%	0.0%	30.0%	20.0%	0.0%	100.0%
アルコール	指標数	1	3	1	2	0	7
	割合	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%
歯の健康	指標数	3	1	4	3	0	11
	割合	27.3%	9.1%	36.4%	27.3%	0.0%	100.0%
生活習慣病	指標数	4	3	4	12	1	24
	割合	16.7%	12.5%	16.7%	50.0%	4.2%	100.0%
健やか親子	指標数	7	6	3	6	0	22
	割合	31.8%	27.3%	13.6%	27.3%	0.0%	100.0%
食育	指標数	2	0	2	4	0	8
	割合	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計 (再掲除く)	指標数	20	11	24	37	1	93
	割合	21.5%	11.8%	25.8%	39.8%	1.1%	100.0%

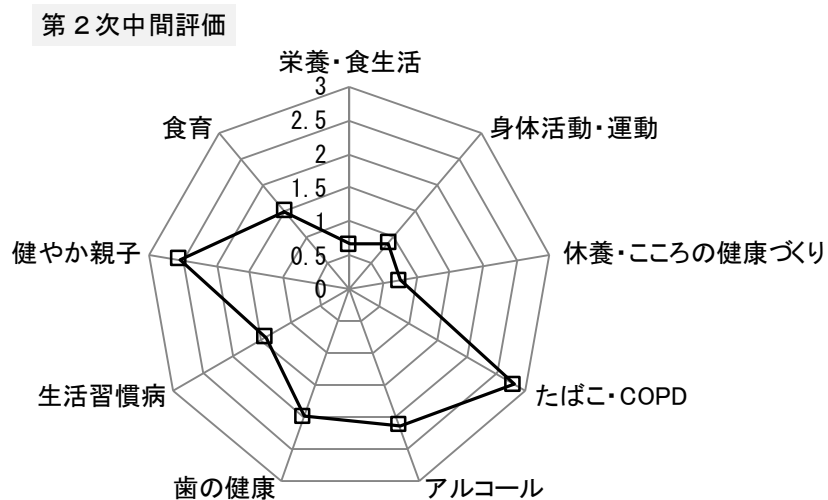
■分野別の評価結果割合



■分野別の目標達成度

中間評価時を次のように点数化し、チャートで表しました。「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養・こころの健康づくり」の分野で点数が低くなっています。

★ (達成) を5点、◎ (改善) を3点、○ (やや改善) を1点、× (悪化・低下) を0点とし、各分野の指標数 (判定不可のものを除く) で割ることで、平均を算出。



1 栄養・食生活

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆適正体重を維持している人の増加					
中等度・高度肥満傾向児 ^{※1} の割合	小学生男子	4.6%	5.7%	4%以下	×
	小学生女子	3.4%	5.0%	3%以下	×
やせ過ぎ者の割合 (BMI 18.5未満)	20歳代女性	31.9%	31.8%	15%以下	○
肥満者の割合 (BMI 25.0以上)	20~60歳代 男性	21.3%	27.0%	18%以下	×
	40~60歳代 女性	11.6%	11.1%	8.5%以下	○
低栄養傾向高齢者の割合 (BMI 20.0以下)	65歳以上	24.7%	20.6%	20%以下	◎
◆朝食を欠食する子どもをなくす					
朝食を欠食する人の割合	1~3歳児	1.3%	1.0%	0%	○
	中学生	0.8%	3.9%	0%	×
	17歳	1.1%	4.9%	0%	×

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	0	1	3	5	0	9
割合	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%	0.0%	100.0%

※¹ 中等度・高度肥満傾向児

肥満傾向児とは、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。特に、肥満度が40%以上50%未満の者を中程度肥満傾向児、50%以上の者を高度肥満傾向児という。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 小学生の中等度・高度肥満傾向児の割合は、男女ともに増加しています。
- 20歳代女性のやせ過ぎ者の割合は、ほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 肥満者の割合は、20～60歳代男性で増加しています。また、40～60歳代女性でほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 低栄養傾向高齢者の割合は、減少し、改善しています。
- 朝食を欠食する人の割合は、1～3歳児でほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。また、中学生、17歳でともに増加しています。

【今後の課題】

高齢者では、低栄養傾向である人が減少しており、高齢期の食事の摂取量や栄養の偏り等が改善していることが考えられます。

一方、成人男性で肥満者の割合が増加しており、特に40歳以上で肥満者の割合が高くなっています。アンケート調査結果（成人）によると、1日に2回以上主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることや、緑黄色野菜を食べる頻度について、いずれも「ほとんど食べない」が男性の40歳代で14.7%と最も高くなっています。また、外食や食品を選ぶときカロリー等の栄養成分表を「参考にしない」「見ていない」と回答した人が女性に比べて男性で多く、約8割となっています。ライフステージに応じた、適量でバランスのとれた食生活の普及啓発に取り組むことが必要です。さらに、本市では、市外に通勤している人が多いことが推測され、通勤時間の長さ等が不規則な食生活や食事の時間につながらないよう、働き方やライフスタイルの変容と一体となった食生活の改善が課題です。

また、朝食を欠食する子どもがみられます。アンケート調査結果（小学生・中学生）によると、朝食を食べない理由として「時間がない」「おなかがすいていない」が高く、特に中学生で時間がないことをあげる回答が多くなっています。生活習慣の改善とともに、子どもやその保護者に対し、朝食を食べることの重要性について周知を図る必要があります。

POINT

- 肥満傾向児の増加や子ども、若年者の朝食の欠食等がみられることから、子どものうちからの健康教育や食育推進、保護者への働きかけをより一層行う必要があります。
- 男性の肥満者の増加を受け、特に40歳以上の壮年期における対策を強化する必要があります。

2 身体活動・運動

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆意識的に運動を心がけている人の増加					
意識的に運動している人の割合	男性	54.6%	51.6%	63%以上	×
	女性	46.1%	45.5%	63%以上	×
◆運動習慣者の増加					
運動習慣者の割合	20～64歳 男性	17.5%	16.0%	28%以上	×
	20～64歳 女性	12.1%	10.3%	22%以上	×
	65歳以上 男性	46.9%	49.0%	57%以上	○
	65歳以上 女性	45.5%	35.2%	56%以上	×
◆何らかの地域活動を実施している人の増加					
地域活動を実施している人の割合	60歳以上 男性	34.5%	37.1%	50%以上	○
	60歳以上 女性	46.9%	50.8%	50%以上	★
◆健康について関心を持つ人の増加					
「ロコモティブシンドローム」の 認知度	成人	14.9%	25.4%	80%以上	○

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	1	0	3	5	0	9
割合	11.1%	0.0%	33.3%	55.6%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 意識的に運動している人の割合は、男性で減少しています。女性ではほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 運動習慣者の割合は、20～64歳の男女、65歳以上の女性で減少しています。65歳以上の男性で増加していますが、目標値には達していません。
- 地域活動を実施している人の割合は、65歳以上女性で増加し、目標値を達成しています。65歳以上男性では増加していますが、目標値には達していません。
- 「ロコモティブシンドローム」の認知度は、増加していますが、目標値には達していません。

【今後の課題】

意識的に運動している人や運動習慣者の割合はほとんどの項目で悪化しており、日常的に運動に取り組んでいる人が減少していることがうかがえます。アンケート調査結果（成人）によると、運動していない理由として「忙しい」が51.6%と最も高くなっており、特に30歳代で高くなっています。健康づくりにおける運動の重要性の普及啓発に努めるとともに、仕事や家事、育児等で多忙な人でも運動に取り組むことができるよう、日常生活の中での運動の意識づくりや運動に取り組む機会、身近な場、簡単な取り組み方法等を提供する必要があります。

一方で、地域活動を実施している人の割合は60歳以上の男女ともに増加しています。地域活動への参加を通じて、地域とのつながりを深め、互いに支え合う意識を醸成することが重要です。一方で、地域活動を実施している人の割合は全体では4割であることから、若い世代の地域活動への参加促進が必要です。

POINT

- 仕事や家事をしながらでも市民が運動習慣を身に着けることができるような工夫が必要です。
- 地域活動は、介護予防の観点からも高齢者の参加を進める必要があるため、今後も継続した取り組みを行うことが重要です。

3 休養・こころの健康づくり

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆ストレスを感じた人の減少					
過度のストレスを感じた人の割合	成人	29.8%	27.6%	23%以下	○
◆十分な睡眠の確保					
午後10時以降に就寝する子どもの割合	1～3歳児	17.7%	14.9%	9%以下	○
睡眠による休養を十分とれていない人の割合	成人	41.1%	40.0%	21%以下	○
◆困った時等に相談先がある人の増加					
困った時や心配なことがある時に相談できる人がいる割合	成人	83.2%	81.6%	90%以上	×

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	0	0	3	1	0	4
割合	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 過度のストレスを感じた人の割合は、減少していますが、目標値には達していません。
- 午後 10 時以降に就寝する子どもの割合は、減少していますが、目標値には達していません。
- 睡眠による休養を十分とれていない人の割合は、減少していますが、目標値には達していません。
- 困った時や心配なことがある時に相談できる人がいる割合は、減少しています。

【今後の課題】

休養・こころの健康づくりについて、目標値を達成している項目は無いものの、全体的に改善傾向がみられます。

アンケート調査結果（成人）によると、直近1か月間でストレスをおおいに感じる人の割合は、男女ともに20～40歳代で高くなっています。また、睡眠によって十分に休養がとれていない人の割合は、20歳代男性や20～30歳代女性で高くなっており、比較的若い世代で睡眠の重要性についての認識が薄い可能性があります。睡眠時間では、「6～7時間未満」が36.8%と最も高く、次いで「7～8時間未満」が28.0%となっており、睡眠の量に問題はみられないことから、睡眠の質に問題がある可能性も推測されます。今後は、良質な睡眠のとり方についての周知啓発が必要です。

困ったときや心配なことがある時の相談相手の有無について、女性よりも男性で「いない」と回答している人の割合が高くなっており、特に、40～50歳代男性で約4割となっています。困ったときや心配なことがある時に一人で抱え込まずに相談してもよいという気運づくり、相談できる専門機関の周知啓発や訪問による相談支援、職場における産業カウンセラーの設置に向けた取り組み等を進める必要があります。

POINT

- ストレスを感じる人が多い20～40歳代の人に対し、ストレス軽減のための取り組みの強化を進める必要があります。
- 若年者に対し、睡眠の重要性について周知啓発を図る必要があります。
- 地域保健と職域保健との連携により、40～50歳代男性が相談できる環境づくりを進める必要があります。

4 たばこ・COPD

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆未成年の喫煙をなくす					
喫煙している人の割合	中学生男子	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳男子	0.0%	2.0%	0%	×
	中学生女子	0.9%	0.0%	0%	★
	17歳女子	2.0%	0.0%	0%	★
◆妊娠中の喫煙をなくす					
妊娠中の喫煙率	妊婦	0.9%	0.0%	0%	★
◆喫煙者の減少					
喫煙している人の割合	成人男性	23.4%	23.3%	15%以下	○
	成人女性	6.3%	3.4%	4%以下	★
◆子育て家庭において同居家族に喫煙者がいる家庭の減少					
喫煙者が同居している割合	乳児	37.1%	33.3%	20%以下	○
	幼児	32.5%	31.4%	20%以下	○
◆たばこの害について関心を持つ人の増加					
「COPD」の認知度	成人	19.3%	17.7%	80%以上	×

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	5	0	3	2	0	10
割合	50.0%	0.0%	30.0%	20.0%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 喫煙している人の割合は、中学生の男女、17歳女子で0.0%と目標値を達していますが、17歳男子で喫煙している人がみられます。
- 妊娠中の喫煙率は、0.0%と目標値を達成しています。
- 喫煙している人の割合は、成人女性で減少しており、目標値を達成しています。一方、成人男性ではほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 喫煙者が同居している割合は、乳児、幼児ともに減少していますが、目標値には達していません。
- 「COPD」の認知度は、減少しています。

【今後の課題】

たばこ・COPDについて、全体的に目標値を達成した項目が多く、喫煙者は減少しています。特に、未成年や妊婦の喫煙者の割合について、17歳男子を除くと0.0%となっており、たばこが子どもの発育や胎児に及ぼす影響について意識が高まっていることがうかがえます。

一方で、成人男性の喫煙者の割合はほぼ横ばいとなっています。アンケート調査結果（成人）によると、喫煙者のうち、禁煙を望む人と望まない人がほぼ半数ずつとなっています。乳幼児がいる家庭における喫煙者の同居割合も目標達成には至っていないため、周囲への受動喫煙（二次喫煙）や残留受動喫煙（三次喫煙）の危険性の周知を図るとともに、禁煙外来を行っている医療機関との連携により、治療費助成制度のさらなる周知を図るとともに、禁煙を望む人を支援する取り組みが求められます。

POINT

- 引き続き未成年や妊婦の喫煙者をゼロにすることをめざし、啓発や情報提供を進める必要があります。
- 禁煙を望む人を支援するとともに、禁煙を望まない人に対しても、環境の整備やたばこが身体に及ぼす影響に関する正しい知識の発信が必要です。

5 アルコール

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆未成年の飲酒をなくす					
飲酒したことがある人の割合	中学生男子	24.4%	11.0%	0%	◎
	17歳男子	31.8%	15.7%	0%	◎
	中学生女子	12.8%	7.9%	0%	○
	17歳女子	33.3%	9.4%	0%	◎
◆節度のある適度な飲酒をする人の増加					
1日当たり純アルコール量が 40g以上の割合	成人男性	23.8%	28.9%	15%以下	×
1日当たり純アルコール量が 20g以上の割合	成人女性	8.1%	16.8%	6%以下	×
◆妊娠中の飲酒をなくす					
妊娠中の飲酒率	妊婦	0.0%	0.0%	0%	★

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	1	3	1	2	0	7
割合	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 未成年で飲酒したことがある人の割合は、中学生、17歳ともに減少し、改善していますが、目標値には達していません。
- 1日当たり純アルコール量^{※2}が40g以上の成人男性の割合、1日当たり純アルコール量が20g以上の成人女性の割合は、ともに増加しており、特に成人女性で増加幅が大きくなっています。
- 妊娠中の飲酒率は、0.0%と目標値を達成しています。

【今後の課題】

未成年で飲酒したことがある人の割合は減少しているものの、0.0%には達していないことから、引き続きアルコールが子どもの発育に及ぼす影響について周知を進める必要があります。

一方で、過度な飲酒^{※3}をする人の割合は成人男性、成人女性ともに増加しており、特に成人女性で大幅に増加しています。アンケート調査結果（成人）によると、1日の適度な飲酒量を知らないと回答している割合が73.1%であり、特に男女ともに20～40歳代でその割合が高いことから、適量飲酒に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

POINT

- 引き続きアルコールが子どもの発育に及ぼす影響について周知を進める必要があります。
- 適量飲酒に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

※²・※³ 1日当たり純アルコール量・過度な飲酒

「過度な飲酒」について、1日の平均純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性で20g以上と定義している。主な酒類の純アルコール量の目安は次のとおりである。

•ビール（中瓶1本 500ml）…20g	•清酒（1合 180ml）…22g
•ウイスキー、ブランデー（ダブル 60ml）…20g	•焼酎（25度）（1合 180ml）…36g
3 •ワイン（1杯 120ml）…12g	

6 歯の健康

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆むし歯がない子どもの増加					
むし歯のない子どもの割合	3歳児	92.1%	93.0%	95%以上	○
	12歳児	72.2%	77.5%	77%以上	★
幼児の仕上げ磨きをしていない保護者の割合	幼児	10.7%	2.9%	10%以下	★
◆歯の喪失防止					
自分の歯を有する人の割合	80歳(75~79歳)で20歯以上	36.4%	37.5%	50%以上	○
	60歳(55~64歳)で24歯以上	71.6%	80.2%	80%以上	★
◆歯間部清掃用器具の使用の増加					
使用する人の割合	成人(35~44歳)	30.0%	38.8%	50%以上	○
	成人(45~54歳)	49.4%	32.4%	60%以上	×
	成人(全体)	35.2%	37.6%	50%以上	○
◆かかりつけ歯科医を持つ人の増加					
かかりつけ歯科医を持つ人の割合	成人	69.2%	75.0%	80%以上	◎
◆定期的に歯科健診を受診している人の増加					
年1回以上歯の健診を受けている人の割合	成人(55~64歳)	51.4%	48.9%	60%以上	×
	成人(全体)	38.5%	37.8%	50%以上	×

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	3	1	4	3	0	11
割合	27.3%	9.1%	36.4%	27.3%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

○むし歯のない子どもの割合は、12歳児で増加し、目標値を達成しています。一方、3歳児ではほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。

○幼児の仕上げ磨きをしていない保護者の割合は、減少し、目標値を達成しています。

○60歳（55～64歳）で24歯以上自分の歯を有する人の割合は、増加し、目標値を達成しています。また、80歳（75～79歳）で20歯以上自分の歯を有する人の割合は、増加していますが、目標値には達していません。

○歯間部清掃用器具を使用する人の割合は、成人全体では増加していますが、目標値には達していません。そのうち、35～44歳では増加していますが、目標値には達していません。また、45～54歳では減少しています。

○かかりつけ歯科医を持つ人の割合は、増加しています。

○年1回以上歯の健診を受けている人の割合は、成人全体ではほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。そのうち、55～64歳では減少しています。

【今後の課題】

評価結果によると、むし歯がない子どもの増加や高齢者の歯の喪失防止、成人の歯間部清掃用器具の使用の増加等、どのライフステージにおいても歯の健康に関する取り組みはおおむね改善しています。アンケート調査結果（妊婦・乳幼児保護者）によると、生まれてくる子どものお口の健康について考えていることがある妊婦の割合が80.0%、「フッ化物洗口」を子どもに受けさせたいと考える乳幼児保護者の割合が88.6%となっている等、保護者の意識の高まりがうかがえます。

また、かかりつけ歯科医を持つ人の割合は増加していますが、年1回以上歯科健診を受けている人の割合は、55～64歳、成人全体ともに減少しており、結果が相反しています。

今後は、乳幼児期からの歯科保健対策の推進、乳幼児期以降の継続した保健指導等や歯間部清掃用器具に関する普及啓発活動の必要があります。また、歯科健診の定期的な受診促進を図る必要があります。

POINT

○子どもの歯の健康づくりの重要性について、引き続き、妊娠期から啓発を進める必要があります。

○青年期や壮年期の人に対し、定期的な歯科健診、正しい口腔ケアや歯間部清掃用器具の使用方法等について普及啓発する必要があります。また、その基礎づくりとして、青年期になる前の学童期から啓発をし、生活習慣として身につくよう促す必要があります。

7 生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病)

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
① がん					
◆悪性新生物による死亡者数の減少					
悪性新生物標準化死亡比 [人口10万対比]	男性	96.2	95.1	94.7以下	◎
	女性	91.5	86.4	91.0以下	★
◆各種がん検診の受診者の増加					
胃がん検診受診率	40歳以上 男女	27.9% (H24)	25.6% (H30)	50%以上	×
肺がん検診受診率	40歳以上 男女	46.8% (H24)	49.6% (H30)	50%以上	◎
大腸がん検診受診率	40歳以上 男女	37.3% (H24)	40.1% (H30)	50%以上	○
子宮頸がん検診受診率	20歳以上 女性	21.3% (H24)	21.0% (H30)	50%以上	×
乳がん検診受診率	40歳以上 女性	14.6% (H24)	15.8% (H30)	50%以上	○
② 循環器疾患					
◆脳血管疾患・心疾患による死亡者数の減少					
脳血管疾患標準化死亡比 [人口10万対比]	男性	92.6	76.3	90.3以下	★
	女性	94.1	83.6	87.9以下	★
心疾患標準化死亡比 [人口10万対比]	男性	76.3	76.6	76.0以下	×
	女性	81.3	80.2	81.0以下	★
◆高血圧症の人の減少					
I度高血圧以上(最高血圧140以上または最低血圧90以上)の人の割合	男性	24.3% (H23)	26.9% (H28)	18%以下	×
	女性	19.6% (H23)	23.8% (H28)	15%以下	×
◆メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少					
メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合	男性	34.5% (H23)	38.1% (H28)	26%以下	×
	女性	11.6% (H23)	11.4% (H28)	9%以下	○
◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の増加					
特定健康診査の実施率(国保のみ)	成人	41.2% (H23)	45.3% (H30)	56%以上	○
特定保健指導の実施率(国保のみ)	成人	22.9% (H23)	34.9% (H30)	45%以上	◎

目標項目	実績値		目標値 (R6)	達成状況	
	基準値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R1)			
③ 糖尿病					
◆糖尿病及び予備軍の減少					
HbA1c6.5%以上の者のうち、 治療中の人の割合	成人	64.2% (H23)	54.0% (H28)	75%以上	×
糖尿病有病者率 (HbA1c6.5%以上の割合)	男性	5.1% (H23)	9.5% (H28)	3.8%以下	×
	女性	2.4% (H23)	5.1% (H28)	1.8%以下	×
	成人	3.6% (H23)	7.3% (H28)	2.7%以下	×
◆糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少					
糖尿病性腎症による新規透析導入 患者数(3か年の平均値)	—	9人	データ取得不可	8人	-
◆メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少 (※再掲)					
メタボリックシンドローム該当者 及び予備群の割合	男性	34.5% (H23)	38.1% (H28)	26%以下	×
	女性	11.6% (H23)	11.4% (H28)	9%以下	○
◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の増加 (※再掲)					
特定健康診査の実施率(国保のみ)	成人	41.2% (H23)	45.3% (H30)	56%以上	○
特定保健指導の実施率(国保のみ)	成人	22.9% (H23)	34.9% (H30)	45%以上	◎
④ 元気まる測定					
◆「元気まる測定」を受けたことがある人の増加					
「元気まる測定」を知っている人の 割合	成人	45.7%	36.8%	55%以上	×
「元気まる測定」を知っており、受 けたことのある人の割合	成人	32.1%	30.8%	40%以上	×

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
①がん						
指標数	1	2	2	2	0	7
割合	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%	100.0%
②循環器疾患						
指標数	3	1	2	4	0	10
割合	30.0%	10.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
③糖尿病						
指標数	0	1	2	5	1	9
割合	0.0%	11.1%	22.2%	55.6%	11.1%	100.0%
④元気まる測定						
指標数	0	0	0	2	0	2
割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
◆生活習慣病 (①～④合計、再掲除く)						
指標数	4	3	4	12	1	24
割合	16.7%	12.5%	16.7%	50.0%	4.2%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

①がん

- 悪性新生物標準化死亡比は、男女ともに減少し、女性では目標値を達成しています。
- 各種がん検診受診率の割合は、肺がん、大腸がん、乳がん検診で増加、子宮頸がん検診でほぼ横ばい、胃がん検診で減少となっており、いずれも目標値には達していません。

②循環器疾患

- 脳血管疾患標準化死亡比は、男女ともに減少し、目標値を達成しています。
- 心疾患標準化死亡比は、女性で減少し、目標値を達成しています。一方、男性ではほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- I度高血圧以上（最高血圧 140 以上または最低血圧 90 以上）の人の割合は、男女ともに増加しています。
- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は、女性でほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。また、男性では増加しています。
- 特定健康診査の実施率（国保のみ）及び特定保健指導の実施率（国保のみ）は、増加し、改善していますが、目標値には達していません。

③糖尿病

○HbA1c6.5%以上の者のうち、治療中の人の割合は、減少しています。

○糖尿病有病者率（HbA1c6.5%以上の割合）は、成人全体、男性、女性いずれも増加しています。

④元気まる測定

○「元気まる測定」を知っている人の割合、「元気まる測定」を知っており、受けたことのある人の割合は、ともに減少しています。

【今後の課題】

がんの分野では、悪性新生物標準化死亡比が減少している一方、がん検診の受診率が減少している項目もみられます。がんの早期発見、早期治療のため、がん検診の受診率を高める取り組みが求められます。

循環器疾患、糖尿病の分野では、脳血管疾患標準化死亡比や女性の心疾患標準化死亡比で目標値を達成している一方で、高血圧症の人の増加や男性のメタボリックシンドローム該当者及び予備軍の人、糖尿病及び予備軍の人の増加がみられます。今後、高齢化等により生活習慣病に罹患するリスクの高い人が増加することが見込まれるため、生活習慣病予防の重要性の理解を高めるとともに、より具体的に市民の健康の維持・増進のための取り組みを実施するよう働きかけることが重要です。また、特定健康診査・特定保健指導の実施率は増加しているものの、目標値には達していません。健（検）診を受診しない理由として、多忙であることや、受診の必要性を感じていない人もいるため、健（検）診の受診勧奨や、地域で市民同士が互いに受診を勧め合う気運づくりを進めることが重要です。

元気まる測定の分野では、元気まる測定を知っている人や受けたことがある人の割合が減少しています。アンケート調査結果（成人）によると、らくらく筋トレ体操の認知度は15.2%、あたまの元気まるの認知度は16.5%で、そのうち、あたまの元気まるを受けたことがある人の割合は20.7%となっています。今後は、市健康課の実施事業に関する周知や参加促進を進めるとともに、誰もが参加しやすい事業内容となる等の工夫を検討していく必要があります。

POINT

○引き続きがん検診や特定健康診査等の受診を促す必要があります。

○生活習慣病に罹患するリスクの高い人に対し、運動習慣の定着や食習慣の改善等を促すため、元気まる測定の利用率を高めるための工夫が必要です。

8 健やか親子

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆乳幼児健康診査受診率の向上					
乳幼児健康診査未受診率	3～4か月児	1.7%	2.5%	1.0%以下	×
	1歳6か月	3.3%	2.5%	3.0%以下	★
	3歳児	6.9%	2.0%	5.0%以下	★
◆かかりつけ小児科医を持つ親の増加					
かかりつけの小児科医をもつ親の割合	乳児保護者	92.1%	89.8%	100%	×
	幼児保護者	97.4%	98.0%	100%	○
◆母性健康管理指導事項連絡カードを持つ妊婦の増加					
母性健康管理指導事項連絡カードを知っている割合	妊婦	52.1%	63.5%	70%以上	◎
◆妊娠・出産について満足している親の増加					
妊娠・出産について満足している人の割合	妊婦	93.3%	97.9%	100%	◎
	乳幼児保護者	96.6%	97.7%	100%	○
◆子育てにストレスを感じることもある親の減少					
子育てにストレスを感じることもある人の割合	乳児保護者	65.2%	68.2%	60%以下	×
	幼児保護者	83.1%	87.2%	80%以下	×
子どもに対して、家族の誰かが怒鳴ったり、叩いたり、無視してしまうことがある割合	乳児保護者	6.7%	2.8%	3%以下	★
	幼児保護者	15.6%	5.0%	12%以下	★
◆育児に参加する父親の増加					
育児に参加する父親の割合	乳児保護者	69.7%	65.5%	75%以上	×
	幼児保護者	57.1%	65.7%	67%以上	◎
◆未成年の喫煙をなくす (※再掲)					
喫煙している人の割合	中学生男子	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳男子	0.0%	2.0%	0%	×
	中学生女子	0.9%	0.0%	0%	★
	17歳女子	2.0%	0.0%	0%	★

目標項目	実績値		目標値 (R6)	達成状況	
	基準値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R1)			
◆未成年の飲酒をなくす (※再掲)					
飲酒したことがある人の割合	中学生男子	24.4%	11.0%	0%	◎
	17歳男子	31.8%	15.7%	0%	◎
	中学生女子	12.8%	7.9%	0%	○
	17歳女子	33.3%	9.4%	0%	◎

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	7	6	3	6	0	22
割合	31.8%	27.3%	13.6%	27.3%	0.0%	100.0%

※再掲項目も含まれています。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 乳幼児健康診査未受診率は、1歳6か月、3歳児で目標値を達成しています。一方、3～4か月児では目標値には達していません。
- かかりつけの小児科医をもつ親の割合は、幼児保護者でほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。また、乳児保護者では減少しています。
- 母性健康管理指導事項連絡カードを知っている割合は、増加し、改善しています。
- 妊娠・出産について満足している人の割合は、妊婦、乳幼児保護者ともに増加していますが、目標値には達していません。
- 子育てにストレスを感じる人がいる人の割合は、乳児保護者、幼児保護者ともに増加しています。
- 子どもに対して、家族の誰かが怒鳴ったり、叩いたり、無視してしまうことがある割合は、乳児保護者、幼児保護者ともに減少し、目標値を達成しています。
- 育児に参加する父親の割合は、幼児保護者で増加していますが、目標値には達していません。また、乳児保護者では減少しています。

【今後の課題】

乳幼児健康診査未受診率は1歳6か月、3歳児で目標値を達成しており、乳幼児の健やかな心身の成長に対する保護者の意識の高まりがうかがえます。

一方、子育てにストレスを感じる人がいる人の割合は増加しており、保護者が子育てにストレスや悩みを抱えている現状がうかがえます。アンケート調査結果（乳幼児保護者）によると、子育てで困っている内容について、乳児保護者では「授乳・食事（離乳食を含む）」が最も高く、幼児保護者では「教育やしつけ」が最も高くなっており、子どもの成長に応じ、保護者の困りごとが変化することがうかがえます。また、妊娠期から子育て期の相談窓口「あさびー子育てコンシェルジュ」の認知度について、妊婦で35.8%、乳児保護者で46.3%、幼児保護者で35.0%となっています。核家族化や都市化により、保護者が育児に対する不安や負担、孤立感を抱えやすい状況にあることから、相談や教室・講座等の開催、保護者同士で情報共有ができる場の提供等、妊娠・出産・子育てを通じた切れ目ない支援により、保護者の育児の不安や負担の軽減を図る必要があります。

また、育児に参加する父親の割合について、乳児保護者で減少しています。共働き家庭が増加する中で、仕事と子育てを両立することができるよう、ワーク・ライフ・バランスの理解の促進を図るとともに、パパママ教室の開催や父子健康手帳の交付等を通じ、父親の育児参加を促す取り組みが求められます。

POINT

- 引き続き親子の健康づくりの重要性について周知啓発を図る必要があります。
- 子育てにストレスや悩みを感じる保護者に対し、不安や負担を軽減するため、利用できるサービスや相談事業の周知等を進める必要があります。

9 食育

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値		目標値 (R6)	達成状況
		基準値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)		
◆食育に関心がある人の増加					
食育に関心がある人の割合	成人	65.2%	60.0%	90%以上	×
◆食に不安がある人の減少					
食に不安がある人の割合	成人	35.6%	25.6%	26%以下	★
◆朝食を欠食する子どもをなくす (※再掲)					
朝食を欠食する人の割合	1～3歳児	1.3%	1.0%	0%	○
	中学生	0.8%	3.9%	0%	×
	17歳	1.1%	4.9%	0%	×
◆孤食をしている人の減少					
1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合	成人	67.3%	65.4%	80%以上	×
◆地産地消に関心を持つ人の増加					
「地産地消」の認知度	成人	80.7%	83.8%	90%以上	○
◆学校給食における地元産食材の使用の増加					
学校給食における愛知県内産の地場産物を使用する割合	—	57.0%	65.8%	60%以上	★

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	—	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	2	0	2	4	0	8
割合	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%

※再掲項目も含まれています。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 食育に関心がある人の割合は、減少しています。
- 食に不安がある人の割合は、減少し、目標値を達成しています。
- 1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合は、減少しています。
- 「地産地消」の認知度は、増加していますが、目標値には達していません。
- 学校給食における愛知県内産の地場産物を使用する割合は、増加し、目標値を達成しています。

【今後の課題】

評価結果をみると、食育に関心がある人の割合の減少や孤食をしている人の増加がみられる一方、食に不安がある人の割合や「地産地消」の認知度が増加しています。食の安全・安心に対する意識の高まりがうかがえる一方、「食育」に関心がある人の割合は減少しています。アンケート調査結果（成人）によると、食育に「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」と回答した女性の割合は74.6%である一方、男性では40.3%と、食育に対する意識が低くなっています。また、食育について関心のある内容では、「バランスの良い食生活」という回答が女性では約9割であった一方、男性では7割に留まっています。特に、男性を中心に、食育やバランスの良い食生活の重要性について周知啓発を図り、行動変容につなげる必要があります。

また、共働き世帯が増加している中、子どもの孤食や食を通じた家族間でのコミュニケーションの不足が問題となっています。アンケート調査結果（小学生）によると、「いつも一人で食べる」「誰かが一緒の時と、一人で食べる時がある」を合わせた割合は、朝食で25.3%、夕食で6.7%となっています。また、1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合は、20歳代男性で低く、34.8%となっています。今後は、一人ではなく、誰かと一緒に食事をする（共食）の重要性について周知啓発を図る必要があります。

POINT

- 引き続き、食の安全・安心に関して、正しい情報発信を行う必要があります。
- 朝食の必要性や食育、家族や仲間と一緒に食事をする（共食）の重要性について幅広い年齢層に対し、普及啓発を図る必要があります。

主な実施事業一覧(健康課)

事業名	栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康づくり	たばこ・COPD	アルコール	歯の健康	生活習慣病	健やか親子	食育
各種健康診査 (生活保護受給者の健康診査・肝炎ウイルス検診・ヤング健診・骨粗しょう症検診)							○		
各種がん検診 (肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん・前立腺がん)							○		
健康手帳交付	○	○	○	○	○	○	○		
元気まる測定 (一般・親子 他)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
あたまの元気まる							○		
生活習慣病予防教室 (あなたのためのちよいやせ道場・STOP!糖尿病 他)	○	○		○	○		○		
各種事後教室 (骨コツヘルスアップ・知って得する!健康プラス・ヤングのうちから健康みつめ隊)	○	○	○	○	○	○	○		
らくらく筋トレ教室	○	○				○			
成人歯科健康診査						○			
禁煙外来治療費助成事業				○					
各種健康教育・健康相談・職員出前講座	○	○	○	○	○	○	○	○	
母子健康手帳交付				○	○			○	
母子保健指導 (パパママ教室・妊産婦栄養教室・離乳食教室 他)	○	○	○	○	○	○	○	○	
妊婦・産婦・乳児健康診査 妊産婦歯科健康診査						○		○	
利用者支援事業 (ハイリスク妊産婦等支援・産後ケア事業 含む)								○	
訪問指導 (産婦・新生児・未熟児訪問 他)	○	○	○					○	
乳幼児健康診査・健康相談 (3～4か月児・6～7か月児・1歳6か月児・2歳3か月児・3歳児)	○	○	○			○		○	
ブックスタート事業 (中学生のブックスタート事業 含む)								○	
子育て相談「ひよこちゃんサロン」 幼児健康診査事後教室「コアラちゃん広場」								○	
不妊治療等助成事業								○	
幼児歯科健康診査 (4歳・5歳・6歳児)						○		○	
保育園・小学校歯みがき指導						○		○	
その他の歯科事業 (8020運動表彰式・公開講座 他)						○			
尾張旭市健康まつり	○	○	○	○	○	○	○	○	○
尾張旭市健康づくり推進員会活動		○	○			○			
尾張旭市健康づくり食生活改善協議会活動	○						○		○

「第2次健康あさひ21計画」
中間評価報告書

発行：尾張旭市

編集：尾張旭市 健康福祉部 健康課

住所：〒488-0074

尾張旭市新居町明才切 57 尾張旭市保健福祉センター

TEL：0561-55-6800

FAX：0561-53-9488

発行年月：令和2年3月